

## ニカラグア定期報告（2018年7月）

### 【要旨】

政権側は、7月上～中旬に国内の反政府側バリケードの多くを武力で掃討し、下旬以降、国内が正常化に向かっている旨を積極的に発信。国民対話の仲介者である司教会議は、政権側の中傷・暴力を受けるようになり、国民対話は中断した状態が継続。米州機構（OAS）の場では、暴力を非難し、準警察的組織の解体を求める対ニカラグア決議が採択された。

### 【主な出来事】

#### 1 独立専門家グループの発足

（1）3日、ニカラグアを訪問中のアブラウ米州人権委員会（CIDH）事務局長は、記者会見を開き、独立専門家グループ（GIEI）の発足を発表した。

（2）記者会見において、GIEIメンバーは、概要以下の説明を行った。

○GIEIの任務は、暴力事件の調査に協力すること、及び被害者・被害者家族に適切なケアがなされるよう政府に勧告を行うことである。

○暴力事件の調査に関しては、GIEIは、ニカラグア当局に取って代わる訳ではなく、適切な調査が行われるよう不十分な点を指摘し、勧告を行うのが任務である。

○GIEIは、ニカラグア政府及びOAS事務局との合意に従い、4月18日から5月30日までに発生した暴力事件の調査を行う。同期間に発生した死者は105名。

○GIEIは既に、ニカラグア政府に対し、調査を開始するために不可欠な基礎書類の提出を求めた。

#### 2 市民同盟の抗議デモ（人間の鎖）

（1）4日昼、マナグア市において、学生、経済界、市民社会からなる反政府連合「正義と民主主義のための市民同盟」の呼びかけにより、市民がマサヤ街道に集い、3キロ以上にわたる人間の鎖を形成し、政権への抗議を行った。

（2）4日午後、政権側も、マナグア市内において、与党FSLN支持者や政府機関職員を動員して約3キロにわたってデモ行進を行った。

#### 3 オルテガ大統領による選挙前倒しの否定

7日、与党支持者がマナグア市内でデモ行進を行い、その後行った集会でオルテガ大統領が演説した。オルテガ大統領は演説で、「ニカラグアでは、憲法がルールである。このルールは、クーデター主義者の目論みによって一朝一夕に変えられるものではない。政権を獲りたいならば、選挙での当選を目指すが良い。国民が、これほどの破壊活動を引き起こしたクーデター主義者に票を投じるかどうか、今に分かるだろう。法律が定めるとおり、選挙までは時間がある。」と発言し、選挙の前倒しを事実上否定したと報じられた。

#### 4 司教会議一行に対する暴力事件

(1) 9日、カラソ県で激化する暴力を制止するため、司教会議メンバー（ブレネス枢機卿、バエス司教補佐）、在ニカラグア法王庁大使館関係者（大使、次席）、市民同盟メンバーからなる一行がディリアンバ市を訪問したところ、与党支持者が一行を取り囲み、罵倒・殴打した。バエス司教補佐、オロスコ 100% Noticias 記者は特に酷い暴力を受けた。

(2) 9日、CIDH 及び国連人権高等弁務官事務所（OHCHR）は、合同でプレスリリースを発出し、週末にニカラグア各地で発生した暴力を非難するとともに、ディリアンバ市におけるカトリック教会関係者に対する暴行を非難した。

#### 5 モリート市での衝突

(1) 12日、市民同盟の呼びかけにより、マナグア市内でデモ行進が行われた。集まった学生や市民らは、ニカラグア国旗を掲げ、4キロ以上にわたって行進した。

(2) 12日、マナグア以外でも、多くの地方都市で政権への抗議デモが行われた。モリート市（リオ・サン・フアン県）で行われた抗議デモでは、デモ隊と警察・パラミリタリーとの間で衝突が発生し、警官4名、市民1名が死亡した。警官4名の死亡については、警察側は、デモ隊の攻撃によるものと発表し、デモ隊側はパラミリタリーの銃撃によるものと主張した。

#### 6 反運河運動リーダーの逮捕

13日、市民同盟のメンバーとしてこれまで国民対話に出席してきたメダルド・マイレーナ氏（反運河運動リーダー）が、米国訪問のためマナグア空港で出国審査を受けていたところを拘束された。警察は、マイレーナ氏に関し、12日のモリート市における警察・市役所への攻撃を指揮したテロリストであると発表した。

#### 7 時限ゼネスト

13日、市民同盟の呼びかけにより、24時間のゼネストが実施された。多くの企業・商店がストに参加し、アゲリ民間企業最高審議会（COSEP）会長は、90%の事業者がストに加わったと述べた。

#### 8 レプリエゲの実施

(1) 13日、サンディニスタ革命関連行事の1つ「マサヤへの戦術的撤退（レプリエゲ）」記念パレードが実施され、オルテガ大統領が車列を率いてマサヤ市へ向かい、同市警察署内で演説を行った。

(2) レプリエゲのパレードは、通例、マサヤ市のモニンボ地区（ソモサ独裁への抵抗の拠点の1つとなった先住民地区）が終着点となるが、モニンボ地区では依然として住民が

バリケードを張り巡らし抗議を続けているため、今次パレードは、39年の歴史上初めて、モニンボ地区に入ることができず、マサヤ市警察署が終着点となった。

#### 9 UNAN マナグア校への攻撃

(1) 13日午後、パラミリタリーが、国立自治大学（UNAN）マナグア校に立てこもる学生らのバリケードに対し激しい攻撃を開始。司教会議や人権団体の関係者が現場に向かったが、警察が道路を遮断し、アクセスを拒否した。

(2) 負傷した学生らはキャンパスから至近の教会に避難した。13日深夜、国民対話の検証・治安委員会を通じた政権側との交渉により、重傷者数名とワシントン・ポスト記者1名を移送して脱出させることに成功したが、14日未明、武装グループは教会・バリケードへの攻撃を再開し、学生ら2名が銃撃を受け死亡した。負傷者は十数名に上った。

(3) ブレネス枢機卿らが政権側と交渉を続けた結果、学生らはキャンパスを明け渡し、政権側は移送中に攻撃を加えないことが合意された。14日昼、学生らはバスでメトロポリタン大聖堂に移送され、2ヶ月以上にわたる籠城が終了した。

#### 10 OAS 常設理事会における対ニカラグア決議

(1) 13日、ニカラグア情勢に関するOAS常設理事会が開催され、アルゼンチンの提出した概要以下の決議案が賛成多数で採択された（賛成21，反対3，棄権7，欠席3）。反対した3ヶ国は、ニカラグア，ベネズエラ，セントビンセント。

○警察や準警察組織による暴力・抑圧・人権侵害を強く非難し、責任者の特定に向けた手続をとるように促すとともに、準警察組織の解体を求める。

○聖職者への攻撃，UNANやCARITAS本部に対する暴力，平和的な抗議デモ参加者への攻撃を非難する。

○ニカラグア政府及び全ての関係者に対し、積極的かつ誠実に、ニカラグアの状況への平和的・持続的な解決策を作り出すメカニズムである国民対話に参加するよう求める。

○ニカラグア政府に対し、OAS選挙監視団の勧告の実施を通じた民主的制度の強化の取組における協力，並びに国民対話プロセスにおいて合意された選挙日程への支援を呼びかける。

○GIEIやフォローアップ機構（MESENI），そしてOAS事務局が主導する民主的制度の強化のためのイニシアティブを支援するとともに、ニカラグア政府に対しこれらの機関が任務を遂行するために必要な環境の整備を求める。

○CIDHやOAS選挙監視部，OHCHR，OAS事務局，EUに対し，検証・治安委員会の取組を支援するよう求める。

(2) 一方、ニカラグアも「ニカラグアにおける平和の回復」と題した決議案を提出したが否決された（賛成3，反対20，棄権8，欠席3）。賛成した3ヶ国は，上記（1）の反対国と同じ（ニカラグア，ベネズエラ，セントビンセント）。

#### 1.1 政権側によるマサヤ市制圧

17日早朝より、警察・パラミリタリーからなる武装グループは、住民がバリケードを張り巡らし抵抗を続けていたマサヤ市のモニンボ地区を包囲、激しい攻撃を加えてバリケードを撤去し、マサヤ市を制圧した。千人以上の人員、三十数台の車両を投入して攻撃したと見られている。右衝突により、少なくとも住民3名、警察官1名が死亡した。

#### 1.2 革命記念式典

(1) 19日、マナグア市内「信仰の広場」にて、サンディニスタ革命39周年記念式典が開催された。オルテガ大統領・ムリージョ副大統領ほか政府・与党の関係者が出席し、多くの与党支持者が集まった。外国からの来賓として、ロドリゲス・キューバ外務大臣、アレアサ・ベネズエラ外務大臣が出席した。

(2) (おそらく反政府側によって) 殺害され路上で燃やされた与党支持者の若者の母親が、主賓級の扱いで出席し、ひな壇の中央(オルテガ大統領とムリージョ副大統領の間)に座り、ムリージョ副大統領に促されて発言、サンディニスタ革命の前進を叫んだ。

(3) オルテガ大統領は、11年間の平和・安定・経済成長をクーデター主義者が破壊しようとしたと述べた他、国民対話の仲介者である司教会議について、クーデター主義者に与していると批判した。

#### 1.3 双方のデモ、与党支持者によるエル・チポテ拘置所周辺の占拠

(1) 21日、政権に抗議する学生・市民らがマナグア市内を約4.5kmにわたって行進し、警察・パラミリタリーの抑圧の停止、責任者の処罰、不当に逮捕された学生や市民活動家(反運河運動指導者メダルド・マイレーナやオリエンタル市場の抗議活動を率いたイルランダ・ヘレス)の釈放等を訴えた。

(2) 21日、与党支持者が、これまで殺害された22名の警察官の責任者の処罰を訴え、国会からエル・チポテ拘置所まで行進を行い、拘置所周辺を占拠した。

(3) これまでエル・チポテ拘置所の周辺では、逮捕された学生・市民の母親らが子女の釈放を訴えて座り込みを続けていたが、与党側のデモの動きを察知したNGO「常設人権理事会」(CPDH)は、与党支持者が母親達に危害を加える恐れがあると判断し、母親達の退避をアレンジした。

#### 1.4 ブラジル人学生殺害事件

(1) 23日深夜、アメリカーナ大学(UAM)医学部のブラジル人女学生ライネイア・リマが、マナグア市内を車で帰宅途中、パラミリタリーに車を止められ、車外から銃撃を受け死亡した。

(2) ブラジル外務省は、24日、声明を発表し、事件を非難するとともに、パラミリタリー等による弾圧を非難した他、ニカラグア政府に対し、人権・自由が保障されるべきと

指摘、責任者処罰のために必要なあらゆる努力を払うよう要請した。また、ヴィラファネ駐ニカラグア伯大使が本国に召還された。

(3) 一方、ニカラグア外務省は、24日、プレスリリースを発出し、「ブラジル人学生殺害事件に関してブラジル政府が執った措置、及び24日のブラジル外務省の声明において用いられた表現を評価するために、マルティネス駐伯ニカラグア大使を召還する。」と発表した。

#### 15 司教会議への連帯を示すデモ行進

(1) 28日、マナグア市内で、政権側による中傷・暴力を受けている司教会議への連帯を示すデモ行進が行われ、多くの市民がニカラグア国旗や法王庁旗を掲げ、ジャン・ポール・ジェニー環状交差点からメトロポリタン大聖堂まで行進した。

(2) 28日、与党支持者もマナグア市内で対抗デモを開催し、UNAN マナグア校からウゴ・チャベス環状交差点まで行進、オルテガ大統領への支持を叫んだ。

#### 16 その他の事件

(1) 5日、住民が多数のバリケードで抗議するレオン市において、警察・パラミリタリーからなる武装グループがバリケード掃討作戦を展開し、3人が死亡した。

(2) 8日、カラソ県の3市（ヒノテペ市、ディリアンバ市、ドロレス市）において、警察とパラミリタリーからなる武装グループがバリケード掃討作戦を展開し、少なくとも14名が死亡した。右死亡者には、警察官3名、パラミリタリー1名が含まれていると報じられた。

(3) 7日夜～8日朝、マタガルパ市において、警察とパラミリタリーからなる武装グループによる襲撃により3名が死亡した。

(4) 13日夜、警察とパラミリタリーからなる武装グループが、マサヤ市内の Paises Bajos 地区と San Miguel 地区にてバリケード掃討作戦を展開し、衝突により警官1名と住民1名が死亡した。

(5) 15日朝、グラナダ県の2市（ディリア、ディリオモ）、マサヤ県の2市（ニキノオモ、カタリナ）において、住民の道路封鎖・バリケードがパラミリタリーの攻撃を受け、5名が死亡した。

(6) 23日夜～24日未明、ヒノテガ市において、パラミリタリーが住民のバリケードを攻撃し、少なくとも3名が死亡した。

#### 17 米マグニツキー法に基づく制裁

(1) 5日、米国政府は、グローバル・マグニツキー人権責任法に基づき、①フランシスコ・ディアス国家警察次長、②フィデル・モレノ・マナグア市官房長、③フランシスコ・ロペス・ニカラグア石油公社（PETRONIC）総裁に対し制裁措置を課すと発表した。

(2) 10日付官報にて、フランシスコ・ロペス氏の PETRONIC 総裁及び鉱山公社(ENIMINAS) 総裁の辞任、並びに退役軍人ラモン・ウンベルト・カルデロン氏の両公社総裁任命が発表された。

#### 18 米国の新たな制裁法案

18日、ロバート・メネンデス米上院議員ら民主・共和両党の12名の議員が、上院に新たな対ニカラグア制裁法案「2018年ニカラグア人権・反汚職法」を上程した。同法案は、マグニツキー法と同様、資産凍結と査証取消しによる制裁を課すものであるが、ニカラグアのみを対象にした法案である点、毎年ニカラグア政府の取り組み状況を審査する点等がマグニツキー法と異なる。

#### 19 外国メディアによるオルテガ大統領インタビュー

7月下旬、オルテガ大統領が、外国のTV(FOX ニュース、ベネズエラ TELESUR、CNN スペイン語 TV、Euronews)のインタビューに相次いで応じ、ニカラグアの正常化に向かっていると強調し、選挙前倒しを否定した他、パラミリタリーについて右派のクーデター主義者が組織したものであると述べた。また、パラミリタリーが警察と共働している事例が沢山あると指摘された際には、「それはパラミリタリーではなく、警察ボランティアである」と述べた。

#### 20 S & P社の格付け引下げ

23日、S & P社は、ニカラグアのソブリン格付けを「B+」から「B」へ引き下げ、経済見通しについては「ネガティブ」を維持すると発表した。

#### <主要経済指標>

	2016年	2017年	2018年		
			5月	6月	7月
インフレ率(対前年同月)	3.1%	5.7%	5.2%	5.6%	未発表
貿易収支(百万ドル)	△3,227.6	△3,113.1	△230.4	未発表	未発表
輸出FOB(百万ドル)	2,226.4	2,548.3	236.4	未発表	未発表
輸入FOB(百万ドル)	5,453.9	5,661.4	466.8	未発表	未発表
海外送金受取額(百万ドル)	1,264.1	1,390.8	127.1	115.2	未発表
外貨準備高(百万ドル/期末)	2,447.8	2,757.8	2,902.3	2,654.2	未発表

(出典：ニカラグア中央銀行)

(了)